

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人体構造機能学 I	NSF11_001	必修	1	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小川 麻里子	教員控室	m.ogawa	授業終了後にメール等で質問等受付		
授業の目的・概要	人体の構造(解剖)と機能(生理)に関して、看護実践に重要なことに焦点をあて、疾病の発症機序および治療、日常生活との関係等を学ぶための基礎知識として、人間の人体の構造と機能を理解する。人体構造機能学 I は、人体構造機能学を学が意義を理解し、人体の基礎構造である細胞・組織・器官系、ホメオスタシス(恒常性)とフィードバック機構について学び、人体を構成する臓器のうち消化器、呼吸器と血液、循環器の構造と機能について学習する。上記について課題学習等を通して理解し、その後の授業においてフィードバックとグループワーク等の意見交換を行い理解を深める。				
学習上の助言	本科目は、医療従事者にとって基礎となる科目であるため予習・復習が重要である。また、授業内容に関する質問は、授業中および授業前後に受け付けているので積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。				
教科書	・系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 第10版/著:坂井建雄、岡田隆夫/医学書院/2018 ・「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック/編:坂井建雄、岡田隆夫/医学書院/2019 [2冊指定]				
参考書	・人体の構造と機能 第5版/編:内田さえ、佐伯由香、原田玲子/医歯薬出版/2019 ・なるほどなっとく!解剖生理学 改訂2版/著:多久和典子、多久和陽/南山堂/2019 ・看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 第2版第5刷/編:日本生理学会教育委員会/医学書院/2019				
①	学生が達成すべき行動目標		関連卒業認定・学位授与方針		
②	① 身体の細胞・組織・器官系について説明できる		NS(1)(4)		
③	② ホメオスタシスとフィードバック機構について説明できる		NS(1)(4)		
④	③ 生体防御機構について説明できる		NS(1)(4)		
⑤	④ 消化器系の構造を理解し、消化吸収について説明できる		NS(1)(4)		
⑥	⑤ 呼吸器系の構造を理解し、呼吸と何かを説明できる		NS(1)(4)		
⑦	⑥ 循環器系の構造を理解し、その働きについて説明できる		NS(1)(4)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	オリエンテーション、人体構造の基礎知識③:機能からみた人体について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p2~6、55~62、ワーク p14~15 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
2	人体構造の基礎知識①:形からみた人体について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p8~27、ワーク p6~7 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
3	人体構造の基礎知識②:素材からみた人体について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p27~55、ワーク p8~13 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
4	栄養の消化と吸収①:口・咽頭・食道の構造と機能について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p64~76、ワーク p16~19 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
5	栄養の消化と吸収②:腹部消化管の構造と機能について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p76~95、ワーク p19~25 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
6	栄養の消化と吸収③④:膵臓・肝臓・胆嚢・腹膜の構造と機能について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p96~106、ワーク p26~29 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
7	呼吸と血液のはたらき①:呼吸器の構造について学ぶ。 フィードバック:課題返却で実施 意見交換の機会:授業時間内に実施	印刷教材等での授業	教科書 p108~120、ワーク p30~33 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	3	
8	呼吸と血液のはたらき②:呼吸について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p120~141、ワーク p34~38 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1	
9	呼吸と血液のはたらき③:血液について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p141~165、ワーク p38~41 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1	
10	血液の循環とその調節①②:循環器系と心臓の構造について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p168~175、ワーク p42~45 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1	
11	血液の循環とその調節③:心臓の拍出機能について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p175~193、ワーク p45~47 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1	

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

12	血液の循環とその調節④:末梢循環系の構造について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p193~206、ワーク p48~55 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1			
13	血液の循環とその調節⑤:血液の循環の調節について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p206~226、ワーク p55~57 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1			
14	血液の循環とその調節⑥:リンパとリンパ管について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書 p226~229、ワーク p57 課題①:ワークブック(事前学習) 課題②:ノートまとめ(事後学習) 課題③:設問への回答(自宅学習課題)	1			
15	まとめ	同時双方向型授業	教科書 p2~229、ワーク p6~57 課題:設問への回答(自宅学習課題)	1			
試	筆記試験 達成度評価・評価のポイントを参照						
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	20	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	5	5
			0	0	0	0	5
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	定期試験(70%)で評価する。定期試験では、各単元の基礎知識を問う問題とし、教科書・ワークブック・授業毎に配布するプリントから出題する。				テストの返却をおこなう。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
その他	①	✓	課題③の各回の提出において「期日厳守の提出で1点」、「全項目の実施で1点」の計2点×15回の30点満点で評価する。課題①②は、定期試験時にまとめて提出し、加点方式(期日厳守の提出で各2点、全範囲の実施で各3点の計10点上限)とする。				提出課題にフィードバックを記載し、返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
提出課題に関して、教科書の丸写しやネット、友人からのコピー等は不可とし、これらが発覚した際には未提出とし、再提出を求める。 1~7回目の課題③(自宅学習課題)が10回目までに提出されない場合は、その回を欠席扱いとする。8回目以降は、Teamsを使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限のWifi環境を推奨します。また、動画視聴や課題のダウンロード等がありますので、通信容量制限がある場合は通信量に十分注意してください。 Teams クラスへの入室が5分以上遅れた場合は、遅刻扱いとし、授業開始20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性があります。 教員の実務経験:作業療法士免許を有した後、10年以上の臨床経験を有する。また、解剖学専攻にて医学博士を取得している。実践的授業の内容:教科書に基づいた講義だけでなく、教員の臨床経験を活かして実際の疾患や症状、障害など事例を挙げながら講義し、臨床での視点の一部を学ぶ。また、質問や意見交換を通じて他者とのコミュニケーションスキルも身に付ける。							